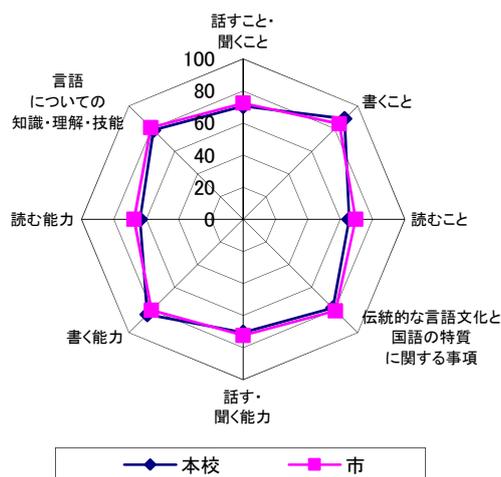


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	70.5	72.4	70.5
	書くこと	88.5	84.1	70.0
	読むこと	65.5	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.4	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	70.5	72.4	70.5
	書く能力	83.9	80.2	68.0
	読む能力	63.8	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	78.6	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

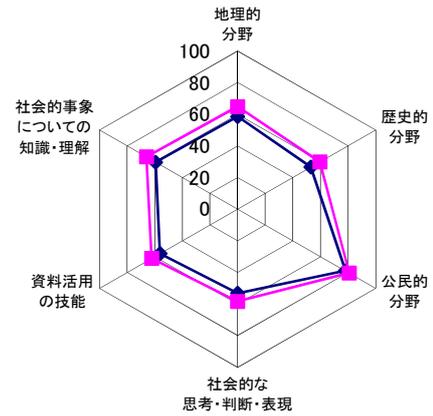
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の考えを尊重しながら、司会者としての役割を果たせるかどうかを問う問題では、市参考値の正答率を上回っている。 ○話の内容を正確に聞き取るための問題では、正答率が8割を超えている。 ●市の平均を約2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に、話し合い活動を取り入れることで、話し合いの仕方の工夫や相手の意見を聞いて自分の意見を伝える能力を伸ばしていきたい。 ・聞き取りテストを活用し、話の内容を聞き取ったり、メモを取ったりする能力を伸ばしていきたい。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均を4.4ポイント上回っている。 ○すべての問題で、正答率が市の平均を上回っている。 ○指定された文字数で書く問題では、正答率が市の平均を7.1ポイント上回っている。 ●3段落構成で文章を書く問題では正答率がやや落ち込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークやプリントの記述問題に取り組ませる機会を増やし、適宜解説を入れていく。 ・教科書の「書くこと」の学習材において、各学年、書く指導がメインとなるものを検討し、それを重点的に指導して、材料を集めたり、資料を参考にしたりしながら、自分の考えを明確に書く力を付けさせていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○説明的文章で、文章の構成や展開をとらえる問題では、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ●市の平均を4ポイント下回っている。 ●登場人物の人物像をとらえる問題では、正答率が市の平均を11.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の読み取りをするうえで、内容を把握しやすくなるようにプリント作成を工夫する。 ・ワークやプリントに取り組ませ、読み取りの力を伸ばしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み・書きともに、正答率が市の平均を超えていた問題が2つずつあった。 ●市の平均を2.4ポイント下回っている。 ●品詞の分類についての問題では、市の平均を9.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習や漢字テストを活用し、書字力を高めていく。 ・文法の内容を扱うときには、過去に学習した内容の振り返りや復習を行い、定着を図るとともに、その定着度合いに応じて授業を工夫していく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	58.5	64.8	54.5
	歴史的分野	53.0	59.7	52.2
	公民的分野	78.1	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	53.2	58.3	49.5
	資料活用 の技能	56.2	62.2	53.1
	社会的な事象についての知識・理解	59.4	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校 ● 市

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

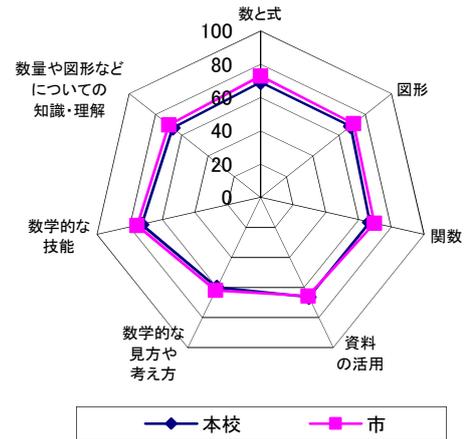
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○世界各国の出生率と死亡率についての資料読み取りについては、全国正答率よりも12.2ポイント上回っている。</p> <p>●市の平均を6.3ポイント下回っている。</p> <p>●地球の姿について世界地図の特色を把握する資料活用 の技能が、市の正答率を8.2ポイント下回っている。</p>	<p>・地球の姿の学習においては、地球儀や世界地図を活用し、世界の地理への興味・関心を高めるとともに、大陸と海洋の分布や緯度と経度による位置関係、世界の地域区分や世界の国々の特色などを意欲的に探究し、捉えようとする力を身に付けさせる。</p> <p>・地図帳の統計資料を活用し、資料の読み取りや分析、比較、関連づけを通して、地理的技能を育てていく。</p>
歴史的分野	<p>○奈良時代の人々の負担についての問題は、市正答率を3.8ポイント上回っている。</p> <p>○平安時代の藤原氏の政治についての問題では、市正答率をやや上回っている。</p> <p>●市の平均より6.7ポイント下回っている。</p> <p>●近世の日本について、江戸幕府の政策や鎖国下の対外政策を資料に基づいて考えたり、把握したりする問題は市の正答率を15ポイント以上下回っている。</p>	<p>・歴史の授業では、生徒自身が諸資料に基づいて、時代の特色と歴史の大きな流れを主体的に考察し、その成果を自らの言葉で説明できる力を育てていく。</p> <p>・授業において、デジタル教科書や実物資料、過去の実際の映像を用いることにより、生徒の、歴史を学ぼうとする意欲を高めていく。また、史料などの読み取りも取り入れ、歴史的事象の知識の理解を図る。</p>
公民的分野	<p>○市の正答率にわずかに届かないが、日本における少子高齢化の進行についての理解や情報リテラシー、情報モラルを踏まえた問題において、正答率が9割を上回っている。</p> <p>●市の平均を2.8ポイント下回っている。</p> <p>●効率と公正の判断基準について考察する問題では、市の正答率を4.5ポイント下回っている。</p>	<p>・公民の授業では、社会的な事象の意味・意義を解釈する学習や、事象の特色や事象間の関連を説明することにより、言語活動の充実を図っていく。習得した知識や技能を活用して、社会的な事象について、自分の考えを説明したり、グループ協議をしたりすることにより、思考力・表現力を身に付けさせていく。</p> <p>・現代社会については、リアルタイムのニュースなどを授業内容と関連させて、公民学習への意欲・関心を高めていく。</p>

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	69.3	73.0	67.5
	図形	68.7	71.1	59.5
	関数	66.8	69.7	60.0
	資料の活用	66.3	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	60.0	61.8	49.6
	数学的な技能	72.6	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	67.0	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

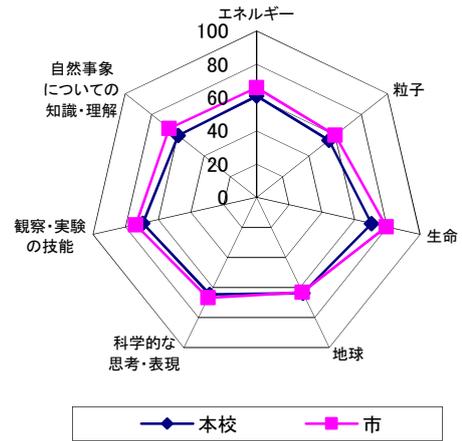
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ○乗法公式を使って因数分解をする問題は、85%以上の正答率である。 ●市の平均を3.7ポイント下回っている。 ●2次方程式を利用し、文章問題を解く問題についての理解が不十分な生徒が多い。 ●分母を有理化し、根号を含む式の減法の問題ができない生徒が半数以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と式」の領域は、数学全般を学習する上で必要不可欠な部分であるので、計算練習などを繰り返し行う。 ・基礎・基本を押さえつつ、応用問題に対応できる力を小テスト形式等を用いて行い、解答・解説を実施する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○図形を平行移動させた距離について理解する問題は、8割以上の正答率である。 ●市の平均を2.4ポイント下回っている。 ●三角形の高さを表す線分の作図方法する問題の正答率が低い。 ●証明の必要性和意味について答える問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、仮定から結論までの流れをしっかりと説明することで、証明の手順を理解させる。 ・合同な図形や相似な図形の探し方を練習し、証明の問題を解くことにより証明の楽しさ味わわせる。 ・反復練習を行うことで定着を図っていく。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ○1組のx, yの値から、関数$y=ax^2$の立式は、市の正答率を5ポイント上回っている。 ●市の平均を2.9ポイント下回っている。関数についての理解度を確かめる問題は、校内正答率41.6ポイントと低い。 ●座標平面上に頂点をもつ長方形の面積を求める問題は、正答率64ポイントと低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数の共通する点と相違な点をまとめ、わかりやすく指導していく。 ・式・表・グラフからそれぞれの特徴を説明し、問題を多面的に捉えやすく指導していく。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決のために、中央値を用いることを判断する問題は、全国の正答率を5.8ポイント上回っている。 ○階級の相対度数を求める式を選ぶ問題では、校内正答率が82.0ポイントと高い。 ○市の平均を0.7ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で確率の考え方が利用されていることが多数あることに気付かせる。 ・やや複雑な確率の問題にも挑戦させ、正しく場合分けができるようにする。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	61.0	66.1	56.4
	粒子	55.2	60.0	57.4
	生命	70.3	79.4	75.2
	地球	63.9	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	64.6	66.8	57.2
	観察・実験の技能	69.6	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	59.7	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

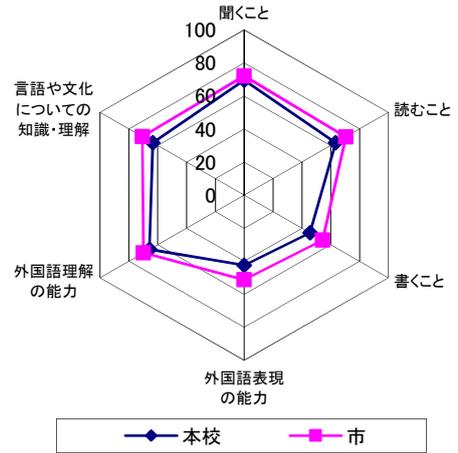
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「音の性質」や「物体の運動」については、おおむね理解できている。 ●市の正答率を5.1ポイント下回っている。 ●問題で問われていることを正しく理解できていない生徒が多い。 ●問題文に書かれている情報を、自分なりに整理することが苦手である。	・問題文を正しく理解するために、読解力の向上を図る必要がある。 ・問題文に書かれている情報を、理解しやすいように自分なりに整理する習慣を身に付けさせる。
粒子	○基礎的な知識は概ね理解している。 ●市の正答率を4.8ポイント下回っている。 ●実験の目的や操作の意味を十分に理解できていない生徒が多い。	・実験や観察が主体的な活動となるよう工夫し、実験の目的や操作の意味を考えながら取り組めるようにする。
生命	○「刺激と反応」については、概ね理解できているが、条件を変えて実験を行うことの意味を理解していない生徒もいる。 ●市の正答率を9.1ポイント下回っている。 ●1年生で履修した「植物のからだのつくりとはたらき」については、学んだことが定着していない生徒が多い。	・実力テストや課題テストを活用しながら、復習をする習慣を身に付けさせる。 ・実験を行う際には、条件を変えて行うことで、より正確に規則性を導けるようにする。
地球	○市の正答率を0.8ポイント上回っている。 ○基礎的・基本的知識は概ね理解できている。 ●自分の考えを文章で述べることに課題がある。	・正しく理解できているかどうか、文章で書かせることで評価する。一人一人のつまづきをを把握した上で、正しい理解に導けるよう、個別に指導していく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.6	72.2	67.8
	読むこと	63.3	70.5	70.4
	書くこと	45.7	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	42.4	51.2	49.2
	外国語理解の能力	65.7	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	63.4	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○英文の内容に合う絵を選んだり、英文の概要を聞き取ったりする問題は正答率が高かった。</p> <p>●対話の内容を聞き取って、適切に応答する力はやや不足している。市の平均を3～8ポイント下回っている。</p>	<p>・教科書の本文等のリスニングだけでなく、ALTとの授業などで自然な英語を聞き取る機会を増やし、慣れるようにしていく。</p> <p>・長い英文や対話文を聞く時には、重要な情報や聞き取れたものをメモする習慣を付け、引き続き指導していく。</p>
読むこと	<p>○メールの内容を把握して、空所に適切な語句を補うことはできている。</p> <p>●語形や語法の理解、対話文の情報を正しく読み取り、適切にその発言等を判断する能力は不足している。全体的に市の平均より7.2ポイント下回っている。</p>	<p>・長文を読んで、それぞれの段落に書かれている内容について、簡単に概要をまとめたり、要点をしっかりとつかむ練習をしていく。</p> <p>・英文の内容に関しては、英語と日本語の両方での質問に答えさせたり、文中の指示語が具体的に何を指しているのかを考えながら読むことで、必要な情報を文章中から探し出していく力を身に付けさせる。</p>
書くこと	<p>○英文を正しい語順で書くことは比較的よくできていた。</p> <p>●与えられた情報に基づいて英文を正確に書く力が不足している。また、自分の小学生時代のエピソードを書く問題では、自分の意見をどう表現したり説明したらよいか分からない生徒が多かった。市の平均よりも10ポイント以上、下回っていた。</p>	<p>・単語や熟語をより多く覚えるために、パズル等を取り入れるなど、生徒が意欲的に取り組めるようにする。また英語の表現力を身に付けるために、ドリル練習などの英語の語彙力を増やす指導を継続していく。</p> <p>・英語の基本的な語順の指導を徹底し、条件作文や与えられた場面の中で、覚えた文型の運用能力を伸ばしていくようにする。</p>

宇都宮市立城山中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	校内公開授業週間を設けて、思考力・判断力・表現力を高めるための指導方法について研修や情報交換を行う。また授業での目標や振り返りを明示して、学ぶ意欲を高めている。	「授業を集中して受けている」に肯定的に回答した生徒の割合は、1年生が88.9%、2年生が89.2%、3年生が90.3%となり、昨年度と比較するとどの学年も上昇している。
学習習慣の定着を目指す指導の工夫	「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉として、小学校からの継続的な取組として行っている。また、自主的な学習への取組を習慣化させて、基礎・基本の定着を図る。	「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」に肯定的に回答した生徒の割合は、1年生が62.6%、2年生が50.0%、3年生が55.9%とどの学年も市の割合を上回っているが、更なる向上を目指したい。

★市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学習と生活についてのアンケートの結果を見ると、3年生の授業への取組についてはほとんどの項目で市の平均を上回っている。しかし、学力調査の正答率は、下回っているものが多い。このことから、学習しようという意欲はあるものの、学習時間を上手に活用できていない様子がうかがえる。次年度は、一人一台の端末を活用しながら、更なる授業の改善を工夫していきたい。
- ・「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」には、学年によって差はあるものの、6割ほどの生徒が肯定的に回答している。次年度も引き続き地域学校園内での共通理解を図り、家庭学習の習慣化と自主的に学習に取り組む姿勢の指導を充実させていきたい。